

独立行政法人航海訓練所の役職員の報酬・給与等について

役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

平成20年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

役員報酬規程において、特別手当は国土交通省独立行政法人評価委員会の当所に対する業績評価の結果を勘案し、その者の職務実績に応じ、増額し、又は減額することができることとしている。

役員報酬基準の改定内容

| | |
|---------|------|
| 法人の長 | 改定なし |
| 理事 | 改定なし |
| 理事(非常勤) | 改定なし |
| 監事 | 改定なし |
| 監事(非常勤) | 改定なし |

2 役員の報酬等の支給状況

| 役名 | 平成20年度年間報酬等の総額 | | | | 就任・退任の状況 | | 前職 |
|------|----------------|--------------|-------------|--|----------|-------|----|
| | 報酬(給与) | 賞与 | その他(内容) | 就任 | 退任 | | |
| 法人の長 | 千円 18,940 | 千円 11,928 | 千円 5,308 | 千円 1,431 273 (特別地域手当) (通勤手当) | | 3月31日 | |
| A理事 | 千円 14,783 | 千円 9,408 | 千円 4,186 | 千円 1,129 60 (特別地域手当) (通勤手当) | | | |
| B理事 | 千円 10,093 | 千円 6,920 | 千円 2,187 | 千円 753 233 (特別地域手当) (通勤手当) | 7月5日 | | |
| C理事 | 千円 4,749 | 千円 2,454 | 千円 2,000 | 千円 295 (特別地域手当) | | 7月3日 | |

| | | | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|--|--|-------|---|
| A監事 | 千円 13,239 | 千円 8,316 | 千円 3,701 | 千円 998 224 (特別地域手当) (通勤手当) | | 3月31日 | * |
| B監事 (非常勤) | 千円 2,286 | 千円 2,286 | 千円 () | 千円 () | | 7月1日 | |
| C監事 (非常勤) | 千円 816 | 千円 816 | 千円 () | 千円 () | | 6月30日 | * |

注1:「特別地域手当」とは、民間における賃金、物価及び生計費が特に高い地域に在勤する役員に支給されているものである。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付している。

退職公務員「*」、役員出向者「 」、独立行政法人等の退職者「 」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*」、該当がない場合は空欄。

3 役員の退職手当の支給状況(平成20年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

| 区分 | 支給額(総額) | 法人での在職期間 | | 退職年月日 | 業績勘案率 | 摘要 | 前職 |
|------|---------|----------|---|----------|-------|----------|----|
| | 千円 | 年 | 月 | | | | |
| 法人の長 | 3,570 | 2 | 6 | H21.3.31 | 1.0 | 業績勘案率は暫定 | |
| 監事A | 3,119 | 3 | 0 | H21.3.31 | 1.0 | 業績勘案率は暫定 | * |

注1:「摘要」欄には、独立行政法人評価委員会による業績の評価等、退職手当支給額の決定に至った事由を記入している。

注2:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付している。

退職公務員「*」、役員出向者「 」、独立行政法人等の退職者「 」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*」、該当がない場合は空欄。

職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項
人件費管理の基本方針

平成22年度において、常勤の役員及び職員に係る人件費を、平成17年度決算比5%以上削減する。

職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

国家公務員の給与水準を考慮して、国民の理解が得られる適正な給与水準とするよう努めている。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

職員に支給される勤勉手当及び職員の昇給・昇格について、各職員の個人勤務評価を反映させている。

〔能率、勤務成績が反映される給与の内容〕

| 給与種目 | 制度の内容 |
|------------------|--|
| 賞与・勤勉手当 (査定分) | 勤務成績に応じて、支給率を加減 |
| 俸給 | ・勤務成績が良好な職員のうち、昇格基準に達した者の昇格 ・12月を下らない期間を良好な成績で勤務した場合の昇給 ・勤務成績が特に優秀である場合の昇給 |

ウ 平成20年度における給与制度の主な改正点

改定なし

2 職員給与の支給状況

職種別支給状況

| 区分 | 人員 | 平均年齢 | 平成20年度の年間給与額(平均) | | | |
|---------|-----|------|------------------|-------|--------|-------|
| | | | 総額 | うち所定内 | うち通勤手当 | うち賞与 |
| 常勤職員 | 316 | 43 | 7,444 | 5,357 | 24 | 2,087 |
| 事務・技術 | 13 | 38.8 | 6,188 | 4,551 | 215 | 1,637 |
| その他教育職種 | 20 | 47.8 | 10,262 | 7,257 | 167 | 3,005 |
| 海技職(一) | 89 | 40.1 | 8,354 | 5,950 | 11 | 2,404 |
| 海技職(二) | 193 | 44.2 | 6,827 | 4,947 | 1 | 1,880 |
| 常勤その他 | 1 | | | | | |

| | | | | | | |
|--------|---|--|--|--|--|--|
| 再任用職員 | 1 | | | | | |
| 海技職(二) | 1 | | | | | |

| | | | | | | |
|-------|---|------|-------|-------|-----|-----|
| 非常勤職員 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 4 | 40.5 | 3,029 | 2,684 | 221 | 345 |
| 事務・技術 | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 4 | 40.5 | 3,029 | 2,684 | 221 | 345 |

注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

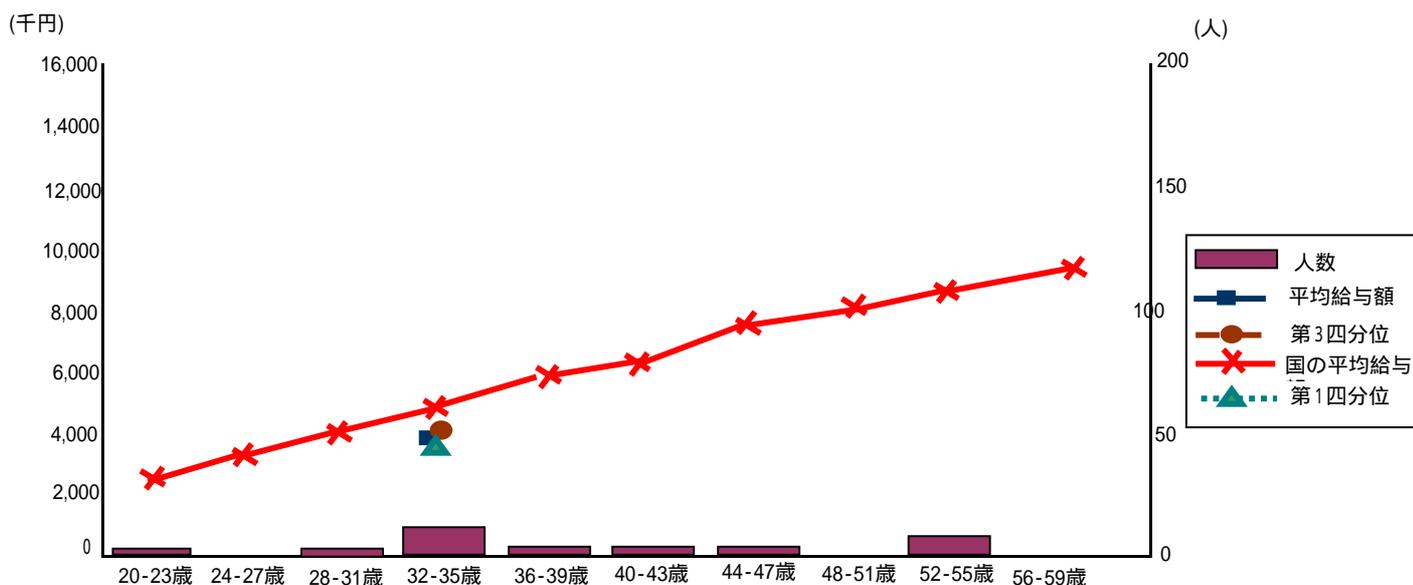
注2: 在外職員、任期付職員の区分については該当者がいないため省略。

注3: 常勤職員、再任用職員及び非常勤職員の研究職種、医療職種及び教育職種については、該当者がいないため省略。

注4: 常勤職員、再任用職員中の“その他教育職種は教授・准教授等”を指し、“海技職(一)は航海士・機関士・通信士・事務員等”を指し、“海技職(二)は甲板員・機関員・司厨員等”を指し、“常勤その他は自動車運転手”を指す。

注5: 常勤職員中の常勤その他及び再任用職員中の海技職(二)は該当者が2名以下であり、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから人数以外は記載していない。

年間給与の分布状況(事務・技術職員)



注1: の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、まで同じ。

注2: 各年齢階層の該当者が2人以下の場合は、当該個人に関する個人情報が特定されるおそれのあることから、平均給与額については表示しない。

注3: 各年齢層の該当者が4人以下の場合は、第1・第3四分位については表示していない。

(事務・技術職員)

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位 | | 平均 | 四分位 | |
|------------------------------------|-------------|------|-------|-------|-------|-----|------|
| | | | 第1分位 | 千円 | | 千円 | 第3分位 |
| 代表的職位 (・本部課長 ・本部係長 ・本部係員) | 2 5 2 | 37.7 | 4,747 | 5,470 | 5,550 | | |

注1: 本部課長、本部係員は該当者は2名以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから人数以外は記載していない。

注2: 本部課長、本部係員は該当者が4人以下のため、第1・第3四分位については記載していない。

職級別在職状況等(平成21年4月1日現在)(事務・技術職員)

| 区分 | 計 | 7級 | 6級 | 5級 | 4級 | 3級 | 2級 | 1級 |
|----------------|----|-------------|-------------|--------------|----------|---------------------|---------------------|-------------|
| 標準的な職位 | | 課長 | 課長 | 課長補佐 | 課長補佐 | 係長 | 係員 | 係員 |
| 人員(割合) | 13 | 1 (7.7%) | 1 (7.7%) | 2 (15.4%) | 0 (%) | 5 (38.5%) | 3 (23.1%) | 1 (7.7%) |
| 年齢(最高~最低) | | 歳 | 歳 | 歳 | 歳 | 55 ~ 31 | 33 ~ 32 | 歳 |
| 所定内給与年額(最高~最低) | | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 5,562 ~ 3,239 | 3,214 ~ 2,903 | 千円 |
| 年間給与額(最高~最低) | | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 7,551 ~ 4,490 | 4,397 ~ 3,999 | 千円 |

注: 該当者が2名以下の場合は、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから「年齢(最高~最低)」以下の事項について記載していない。

賞与(平成20年度)における査定部分の比率(事務・技術職員)

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理職員 | 一律支給分(期末相当) | % | % | % |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % | % | % |
| | 最高～最低 | % | % | % |
| 一般職員 | 一律支給分(期末相当) | % 66.4 | % 67.8 | % 67.1 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 33.6 | % 32.2 | % 32.9 |
| | 最高～最低 | % 37.5～32.3 | % 36.0～29.4 | % 34.8～30.8 |

管理職員の該当者は2名以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから記載していない。

職員と国家公務員及び他の独立行政法人との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員)

対国家公務員(行政職(一))

101.2

対他法人(事務・技術職員)

93.5

注：当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他法人」においては、すべての独立行政法人を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

事務・技術職員

| 項目 | 内容 | | | | | | | | | |
|--------------------------------|--|-------|------|-------|--|------|------|--|---------|------|
| <p>指数の状況</p> | <p>対国家公務員 101.2</p> <table border="1" data-bbox="703 309 1157 409"> <tr> <td data-bbox="703 309 842 347">参考</td> <td data-bbox="842 309 1023 347">地域勘案</td> <td data-bbox="1023 309 1157 347">101.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="842 347 1023 385">学歴勘案</td> <td data-bbox="1023 347 1157 385">99.7</td> </tr> <tr> <td></td> <td data-bbox="842 385 1023 409">地域・学歴勘案</td> <td data-bbox="1023 385 1157 409">99.5</td> </tr> </table> | 参考 | 地域勘案 | 101.0 | | 学歴勘案 | 99.7 | | 地域・学歴勘案 | 99.5 |
| 参考 | 地域勘案 | 101.0 | | | | | | | | |
| | 学歴勘案 | 99.7 | | | | | | | | |
| | 地域・学歴勘案 | 99.5 | | | | | | | | |
| <p>国に比べて給与水準が高くなっている定量的な理由</p> | <p>事務・技術職員の対国家公務員(行政職(一))の比較指数が高くなっている要因は、当所における扶養手当・住居手当支給額が国の行政職(一)の適用を受ける者の同手当の平均と比較して高いことによると考えられる。</p> | | | | | | | | | |
| <p>給与水準の適切性の検証</p> | <p>[国からの財政支出について] 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 99.5% (国からの財政支出額 6,619,183千円、支出予算の総額 6,651,612千円：平成20年度予算)</p> <p>[検証結果] 現在の給与水準は適切であると思慮する。</p> <p>[累積欠損額について] 累積欠損額 0円(平成19年度決算)</p> | | | | | | | | | |
| <p>講ずる措置</p> | <p>平成22年度に見込まれる対国家公務員指数 年齢勘案：105.4 年齢・地域・学歴勘案：102.6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当所の給与規程は、俸給、諸手当、昇給・昇格基準その他運用等で国の給与法と同一の内容。 ・調査対象人員が少数であり、異動のタイミング等により対国家公務員指数は高低が生じることが考えられるが、当所はその大半が国との交流職員であることから、人事交流時において人選の配慮を求めるなど引き続き努力を行ってきたい。 <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支出総額に占める給与、報酬支給額の割合 52.4%(給与、報酬支給額 3,470,816千円、支出総額 6,621,127千円) ・管理職の割合 15.4%(事務・技術職員数 13名 管理職 2名) ・大卒以上の高学歴者の割合 30.8%(事務・技術職員数 13名 大卒者数 4名) | | | | | | | | | |

総人件費について

| 区 分 | 当年度 (平成20年度) | 前年度 (平成19年度) | 比較増 減 | | 中期目標期間開始時(平成18年度)からの増 減 | |
|---------------------------|-----------------|-----------------|---------|------|-------------------------|------|
| | 千円 | 千円 | 千円 | (%) | 千円 | (%) |
| 給与、報酬等支給総額 (A) | 3,470,816 | 3,558,842 | 88,026 | 2.5 | 202,938 | 5.5 |
| 退職手当支給額 (B) | 478,882 | 327,875 | 151,007 | 46.1 | 125,986 | 35.7 |
| 非常勤役員等給与 (C) | 27,015 | 25,746 | 1,269 | 4.9 | 2,121 | 8.5 |
| 福利厚生費 (D) | 478,213 | 489,875 | 11,662 | 2.4 | 23,475 | 4.7 |
| 最広義人件費 (A + B + C + D) | 4,454,926 | 4,402,338 | 52,588 | 1.2 | 98,306 | 2.2 |

総人件費について参考となる事項

「給与、報酬等支給総額」の減少は支給人員の変動の影響で、「最広義人件費」の増加は退職者が多く発生したことが影響。

「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)及び「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人件費削減の取組の状況

)主務大臣が中期目標において示した人件費削減の取組に関する事項

各般の業務運営の効率化を通じて、人件費(退職手当等を除く。)については、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、前中期目標期間の最終年度予算を基準として、本中期目標期間の最終年度までに国家公務員に準じた人件費削減の取組を行うこととする。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた役職員の給与体系の見直しを進めることとする。

)法人が中期計画において設定した削減目標、国家公務員の給与構造改革を踏まえた見直しの方針前中期目標期間の最終年度予算を基準として、本中期目標期間の最終年度までに人件費(退職手当等を除く。)について5%以上の削減を行う。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた役職員の給与体系の見直しを進める。

)上記)の進ちょく状況

総人件費改革の取組状況

| 年 度 | 基準年度 (平成17年 度) | 平成18 年度 | 平成19 年度 | 平成20 年度 |
|--------------------|----------------------|------------|------------|------------|
| 給与、報酬等支給総額 (千円) | 3,744,390 | 3,673,754 | 3,558,842 | 3,470,816 |
| 人件費削減率 (%) | | 1.9 | 5.0 | 7.3 |
| 人件費削減率(補正值) (%) | | 1.9 | 5.7 | 8.0 |

注:「人件費削減率(補正值)」とは、「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人事院勧告を踏まえた官民の給与較差に基づく給与改定分を除いた削減率である。なお、平成18年、平成19年、平成20年の行政職(一)職員の年間平均給与の増減率はそれぞれ0%、0.7%、0%である。

法人が必要と認める事項

特になし